



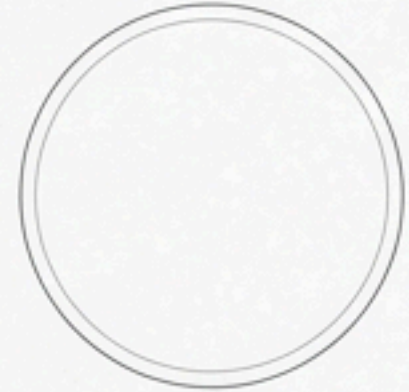
エントリーの迷いを断つ

プライスアクションという「待つ技術」

知識はある。方向性も合っている。それでも勝てない。



- どこで入ればいいのかわからない。



- 理論を理解していても、見えているのに取れない。



- それでいる予約れない。

なぜか？

方向ではなく、「間」がズレているからです。

初心者が陥る「間のズレ」の連鎖

1. 早すぎるエントリー

2. 無駄な損切り

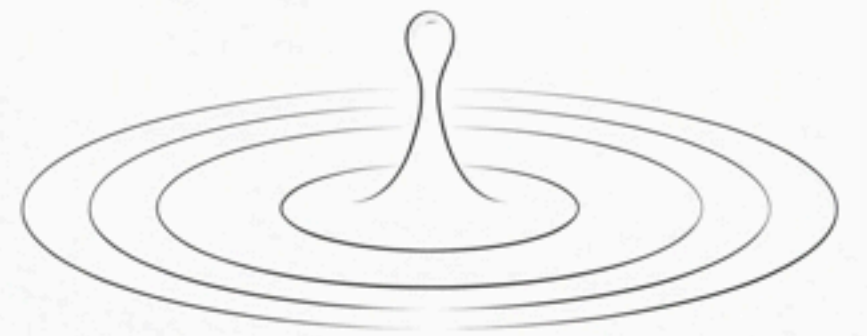
3. 損切り後に本命方向へ動く

4. 入り直して利益が削られる

原因はシンプル。
「待てていない」
これに尽きる。

エントリーとは「攻め」ではなく、「待ち」である。

プライスアクションとは、市場の「呼吸」を読む技術。
形を探すのではなく、流れを感じ取る。
焦って先回りしない。
必要なところだけで、動く。



視点を整える：形を探す者と、流れを感じる者

一般の視点

Taoismの視点

形・チャートパターン

- 流れ・市場の呼吸

上がるか下がるかの「方向」

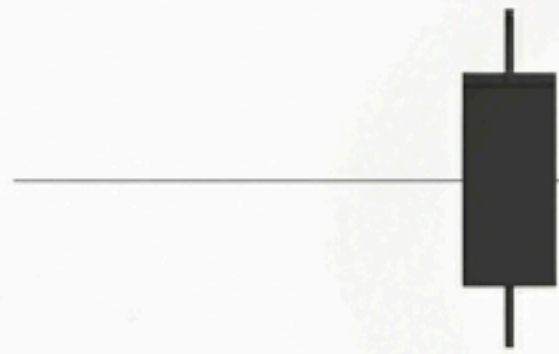
- どれだけの力で動いているかの「強弱」

予測と感情（早すぎるエントリー）

- 変化の「証拠」（構造と間）

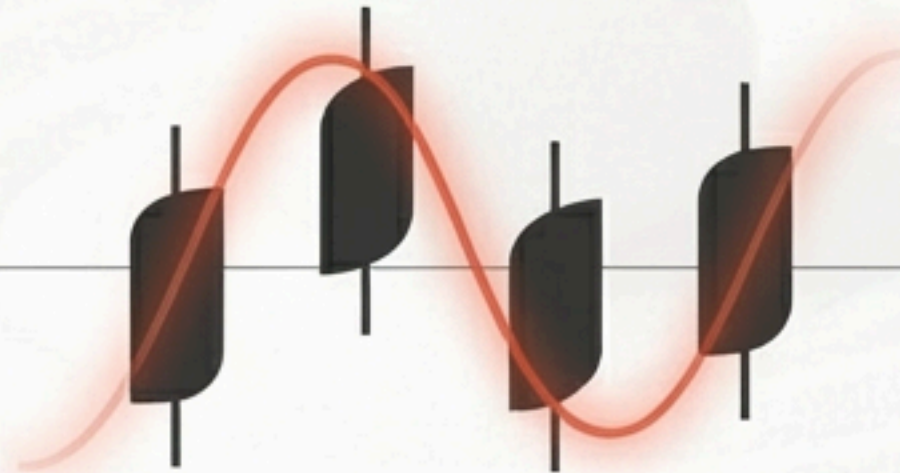
市場の「呼吸」を捉える解像度

Micro



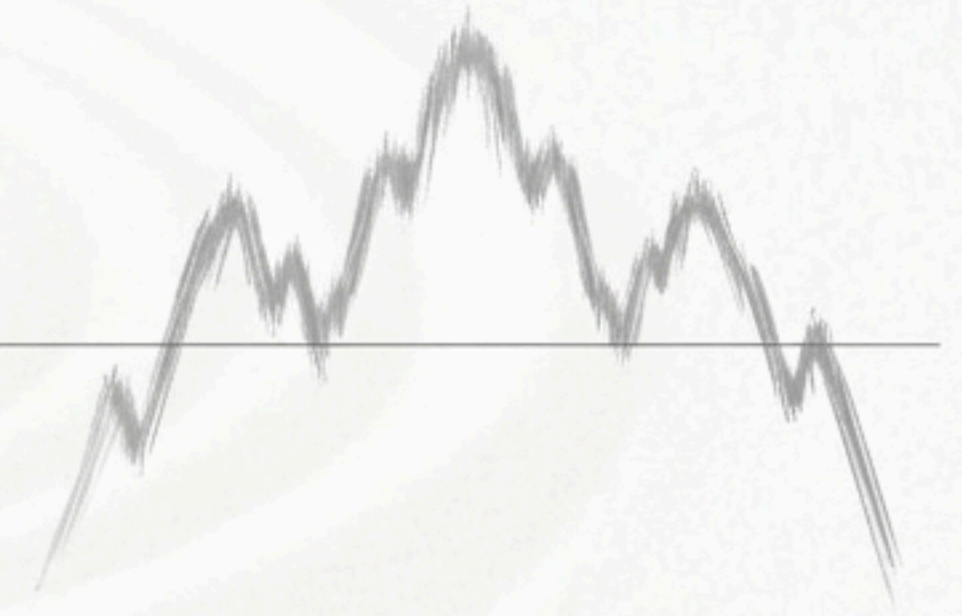
ローソク足1本では
短すぎる

The Sweet Spot



その間にある
「流れ」を読む

Macro



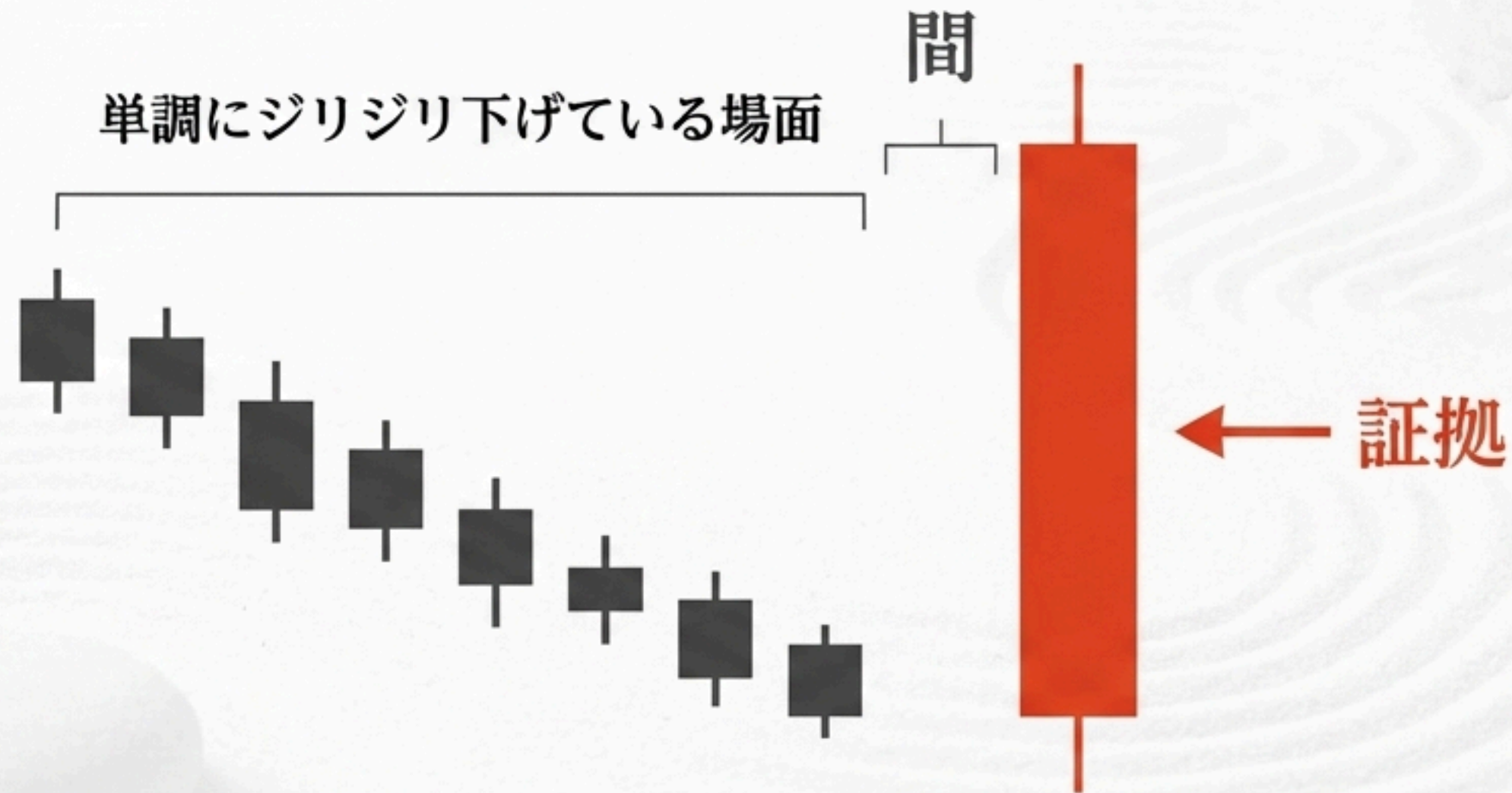
チャートパターンでは
長すぎる

「ただの戻し」という罠



- 価格が少し反発したただけで入る。これはほぼ負ける。
- なぜか？
まだ「流れ」が変わっていないからだ。
- 下げの流れの中の「ただの戻し」。ここで入ると、もう一段下げに巻き込まれる。

流れが変わった「証拠」を見てから入る



売りが弱まり、買いが一気に入る。力が変わったというサイン。
強い転換の足を待ち、証拠が出てから入る。この瞬間こそが「間」である。

行動を整える3つの柱

待つ

エントリー

強い転換の足を待つ。
焦って先回りしない。

守る

損切り

恐れるものではなく、
設計するもの。

握る

保有

入る技術ではなく、
持つ技術。
ここが利益を決める。

トレードはこれらすべてが構造的に結びついて成立する。

損切り：恐れを捨て、「構造」として設計する



エントリー起点の少し下に置く。

無駄に広げない。リスクはここで限定される。

損切りは感情による逃避ではない。

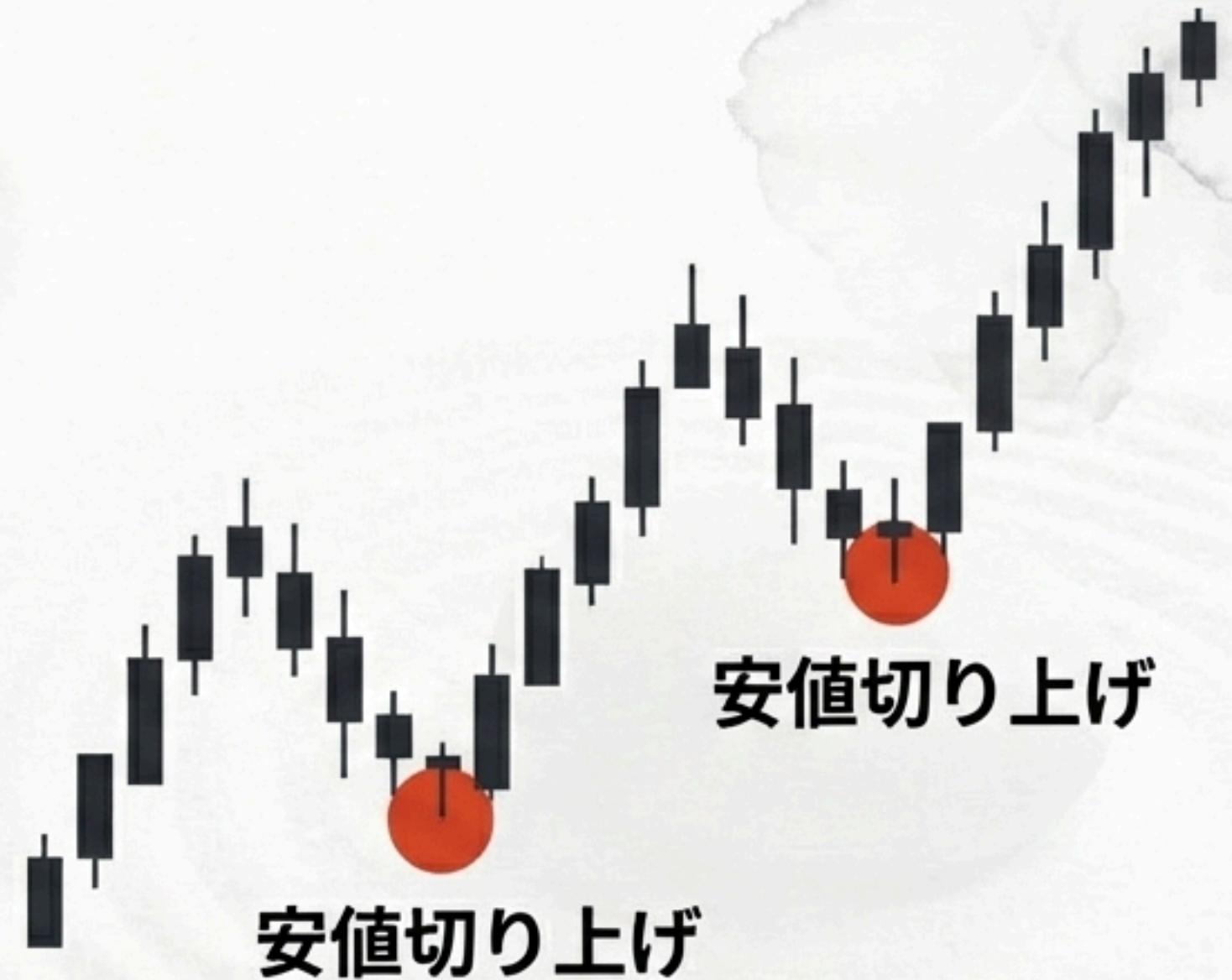
「流れが変わったという前提が崩れる場所」に、あらかじめ設計しておくものだ。

握力：感情ではなく「構造」で持つ技術

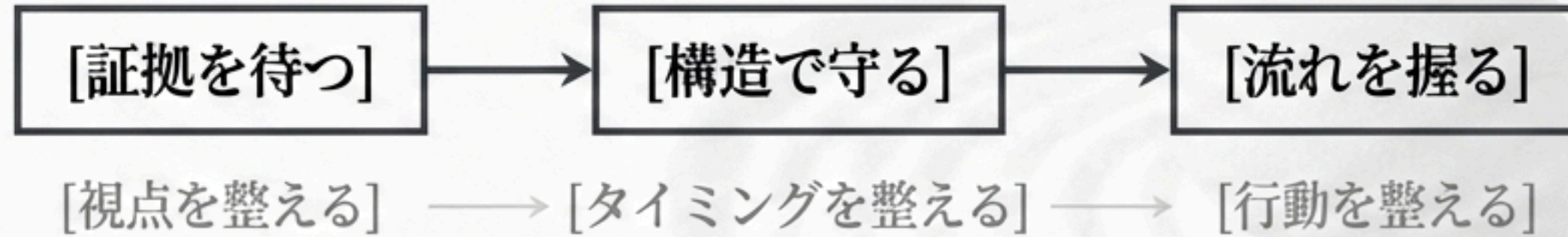
利益を決めるのは、
エントリーではなく「握力」。

安値切り上げを確認し、
流れが継続しているかを見続ける。

- 自分の恐怖（感情）で決済しない。
- 市場の構造（事実）が崩れるまで
持ち続ける。



トレードとは、自分との対話である



TAOISMは整える思想です。

エントリーに迷うとは、「間」が整っていない状態。

焦りを捨て、流れに従い、必要なところだけ動く。
それができたとき、市場に振り回されることはなくなります。

あなたは今、待つべきところで、待っていますか？